

会 議 議 事 録

1 会議名	令和5年度長岡市市民協働推進審議会
2 開催日時	令和6年3月1日（金曜日） 午後1時30分から午後3時まで
3 開催場所	アオーレ長岡東棟3階 301会議室 (ZoomによるWeb会議併用)
4 出席者名	(委員) 板垣委員 大滝委員 大原委員 恩田委員 上村委員 小林委員 佐竹委員 田中委員 星野委員 渡辺委員 (事務局) 伊藤市民協働推進部長 五十嵐市民協働課長 仙海市民協働課長補佐 中村市民協働課市民協働係長 大平市民協働課コミュニティ推進係長 永井市民協働課アオーレ交流係長 内山市民協働課主事 内山市民協働課主事 星野市民協働課主事 (サポート) 市民協働センタースタッフ
5 欠席者名	なし
6 議題	(1) 市民活動のいま (2) 企業連携とSDGsの推進 (3) 市民活動のこれから (4) 次期ビジョンの方向性
7 審議結果の概要	議題(1)～(4)について、事務局より説明があり、委員による意見交換が行われた。
8 審議の内容	
会長	1 開会 (市民協働推進部長あいさつ) (新委員自己紹介) 2 議事

会長	<p>それでは、議題（1）市民活動のいまについて事務局から説明をお願いします。</p>
事務局	<p>（資料1-1～1-7に基づき説明）</p>
会長	<p>資料1-2 未来共創補助金採択件数の推移では、当初は申請件数、大規模な事業ともに多かったですが、少しずつ低迷し、コロナ禍では申請数がずいぶん落ち込み、現在は申請数が戻りつつあります。しかし、件数の減少が活動の低調を示しているとは言えないと思います。資料1-4 市民協働センターの相談件数と登録団体数は、当初と比較するとかなり増加しており、市民協働が当たり前になってきていることを示しています。また、資料1-3 市民活動フェスタでは、67団体もの団体に参加いただき、来場者は5,000人とかなり活発です。資料1-5 市民協働センターの相談内容では、当初人物紹介や情報交換の相談が多くありましたが、徐々に助成金・資金調達の相談も増加しています。また、市の補助金だけでなく、NPO 法人市民協働ネットワーク長岡の夢の種プロジェクトをはじめとする補助金もあり、様々な財源にアクセスできるようになってきています。クラウドファンディングの概念が生まれたり、アドバイスを受けながら様々な助成金を受けられるようになってきたことが、未来共創補助金の採択件数の減少に繋がっているのではないかと思います。</p>
委員	<p>未来共創補助金の審査員を務めていますが、申請事業にはアーカイブ的な事業、若者の新たな取り組み、福祉的な事業、参加しやすいイベントまでバランスが良いです。色々な方が市民活動に参加し、やりたいと思える機運が長岡にあるのだと思います。事務局の丁寧な相談によって市民活動を展開、継続できるのだと思います。「何のために」「誰のために」という部分を見据えた活動を下支えする方がいるからこそ成り立つ市民活動だと思います。</p>
会長	<p>相談の入口として市役所やNPOのスタッフが丁寧に対応していただいていると思います。補助金自体よりも、そのための相談による支援の存在が大きいように思います。</p>
委員	<p>資料1-5 市民協働センター相談内容について、助成金や人物紹介について学校から相談はありますか。</p>
協働センター	<p>PTA行事で音楽の発表ができる人を紹介してほしい、総合学習でどのようなことを取り上げたら良いかなど相談があります。漠然としたもの</p>

	<p>もあるので、学校に直接出向き提案することもあります。</p>
委員	<p>相談する学校が増えると良いなと思っているので、安心しました。コロナ禍を機に学校の行事がかなり縮小、廃止され、子どもの経験値が下がっていると感じます。PTAの負担軽減やコロナ禍を機にした廃止、教員の働き方改革なども原因だと思いますが、子どもの経験値が下がらないよう人物紹介やアドバイスをしていただけると良いと思います。</p>
会長	<p>市民協働センターという名前から学校が相談に行っても良い所と思われれないのだと思います。学校が相談できる場所というメッセージをもっと伝えても良いと思いました。らこっでは、学校に配布していますか。</p>
協働センター	<p>毎月配布しています。また、市民協働センター登録団体を180団体掲載するマッチングリストも配布し、実際にマッチングリストを見て学校に呼びたい団体があるという問い合わせもあります。</p>
会長	<p>身近なところからも、「らこっでが届いた」「読んだ」という報告が届きます。とても素晴らしい広告媒体だと思います。</p>
委員	<p>市民活動は、コロナ禍を経て内容や方法を変えながら新しいステージに入ったと思います。昨年10月にインボイス制度が施行され、今年1月に電子帳簿保存法が義務化されました。今年度、インボイス制度についてどのくらいの相談があったか、また、各団体の対応状況についてお聞かせください。</p>
協働センター	<p>相談は数件受けています。講座も開催しましたが、既に概要を承知されていたり、自らに直結した問題とは考えていない団体が多いです。人を雇用している団体は少なく、雇用していても年間1,000万円以下の事業費の小さな団体がほとんどで、規模が大きい団体は、独自に対策をしているので危機感をもって相談に来るケースはあまりないのが現状です。</p>
会長	<p>それでは、議題(2)企業連携とSDGsの推進について事務局から説明をお願いします。</p>
事務局	<p>(資料2-1～2-5に基づき説明)</p>
会長	<p>ご意見、ご質問がありましたらお願いします。</p>

委員	<p>私が理事長を務めている団体では、住み続けられるまちづくりのため、草刈りやごみ拾いをしています。メンバーは、平均年齢が約80歳になりましたが、いきいきとした姿を町の人が見ていて、声をかけてくださいます。70歳まで働き、退職後に私たちの仲間に入ってくくださる方もいますし、若者からは参加に至らなくてもありがたいとの言葉をもらいます。団体の活動がらこってに掲載されてから市民の方からの反応も変わってきたように思います。</p>
会長	<p>市民協働という堅苦しく感じますが、皆が主役になるということだと思います。らこってに掲載されると主役になれるし、普段会う人も違って見えますね。</p>
協働センター	<p>地域で地道に頑張っている方々が主役であり、スポットライトを当てていきたいと思っています。また、皆さんの活動が実はSDGsに繋がっているのではないかと外からの視点を加えることで、胸を張ってもらえるように取り組んでいます。取材した記事は、らこってをはじめ、SNSやメールマガジン、ホームページなど様々な媒体で拡散しています。スタッフだけでは情報を追いきれない部分もありますので、ぜひ情報提供をお願いします。</p>
会長	<p>取材先から紹介を受けて取材に行くなど、さらに広がっていくと良いと思います。</p>
委員	<p>商工会議所では、企業にアンケート調査を行いました。一般企業では、SDGsに対して「設備投資などをしなくてはいけない」と認識している場合も多いですが、「少しずつできることから」とPRしており、今後取り組んでいかななくてはいけない課題だと考えています。引き続きご支援をよろしくをお願いします。</p>
会長	<p>アンケート結果からは、取り組む人員や時間が不足している、SDGsに関する知識やノウハウが不足しているという声が多いことが分かりますが、既に取り組んでいることが実はSDGsに該当していたり、コスト削減や社会的な評価に繋がることもあるかもしれません。無理に資金、人材、時間を費やすというよりは、SDGsという見方を通して仕事を見直すと思わると変わってくると思います。引き続き、商工会議所をはじめ、民間企業との連携が非常に重要であると思います。</p>
委員	<p>らこっての内容や配布先をお聞かせください。</p>

協働センター	<p>らこっでは、市民協働センター開設以来毎月発行しているものです。最新号では、中越地震から20年の年ということで、災害をテーマに市民活動団体等へ取材を行いました。らこっでインタビューしたものは、FM長岡のラジオやSNSでも発信しています。裏面では、SDGs関係、市民活動団体に役に立つ情報などを掲載しています。公共施設や市民協働センター登録団体、市内まちの駅に設置しており、発行部数は毎月3,000部です。</p>
委員	<p>長岡市の広報誌と一緒に配布することはできないのですか。</p>
事務局	<p>NPO法人が発行してるものなので難しいです。</p>
会長	<p>SNSやホームページでも見ることができます。非常に育ってきているメディアなので、今後も続いていくと良いと思います。</p> <p>それでは、議題（3）市民活動のこれからについて事務局から説明をお願いします。</p>
事務局	<p>（資料3-1～3-5に基づき説明）</p>
会長	<p>社会的孤立は、とても大きな問題であり、有効なアプローチの一つが市民協働です。社会の一員として参画していくことが大事だと思います。ご意見、ご質問がありましたらお願いします。</p>
委員	<p>地域おこし協力隊制度について、隊員に求めること、制度開始から10年以上経った今導入する理由、市民協働の枠組みの中で見込まれる効果や期待することについて教えてください。</p>
事務局	<p>協力隊員には、地域の中で市民や支所と密にコミュニケーションをとりながら活動してもらうことを求めています。また、国の予算や目標値が増加したことを受けて、来年度からの雇用に踏み切りました。採用後の活動の展開については、隊員の能力や個性を活かし、これまででは考えが至らなかったような化学反応が起きることを期待しています。</p>
委員	<p>募集は開始していますか。</p>
事務局	<p>雇用は4月からです。今現在、市民協働に関する業務に興味を示してくださる方が何名かいらっしゃいますので、その中から条件に合う方を</p>

<p>会長</p>	<p>雇用する予定です。</p> <p>よそ者の視点により、地域内では気づかないことに気づくきっかけになるとと思います。協力隊制度には、横の繋がりづくりや実際に何をしたらよいか分からないという課題もありますが、制度を上手く利用することで市民協働の活動が広がると思います。中越地震の後に導入された地域復興支援員の制度が、地域おこし協力隊のモデルとなり全国展開されたという経緯もあるので、大いに活用していただきたいと思います。新潟県は協力隊員の定着率も高いです。一方で、ミッションを定義し過ぎても、ほったらかし過ぎても良さを活かせないなど難しい部分もありますが、いい意味で自由に活動していただき、新しい視点を入れて活躍していただきたいと思います。</p>
<p>委員</p>	<p>栃尾地域では、協力隊が4名定住し、夫婦で来られた協力隊には子どもも誕生しました。地域の方と協力する姿も見られ、とても良い制度だと思っています。</p>
<p>会長</p>	<p>資料3-4資金調達のノウハウについて、可能であれば次回以降、市の補助金を使わずに市民協働センター等のサポートを受けて実施できた事業の実績データがあると現在の団体の自立の程度を見ることができると思います。</p> <p>それでは、議題(4)次期ビジョンの方向性について事務局から説明をお願いします。</p>
<p>事務局</p>	<p>(資料4-1～4-4に基づき説明)</p>
<p>会長</p>	<p>民間企業とのマッチングは、現在のビジョンが策定されてからかなり進んできました。人口減少がますます進むことなどをイメージしながら、市民活動という社会課題解決の一つの方向性を示すという意味のビジョンとなるかと思います。課題認識や、力を入れるべきテーマなどがあればご発言ください。</p>
<p>委員</p>	<p>若者の自死や、働き盛り世代の鬱など、社会の中で生きづらさを感じている人が増加していると思います。プレイヤーが減少している中で、いかにオールキャストで市民協働のまち長岡を実現していくのか悩ましいところです。</p>

委員	<p>支所地域は今後コミュニティセンターが軸になっていくと思っておりますが、市民の方にはその機能があまり知られていない現状です。2年間地域学びコーディネーターの講習を受けたので理解していますが、市民の多くはコミュニティセンターを市役所の延長と捉えており、主体的に働きかけて何かをするという意識があまりないと感じます。昨年、地域の未来を考える講演を行いました。そのような形で市民協働センターなどから協力をいただきながらコミュニティセンターのあり方を整えることで、コミュニティセンターに対する意識が変わると良いと思います。</p>
会長	<p>コミュニティセンターに気軽に来ていただき、「何かをやってほしい」ではなく「こうゆうことをやりたい」という場所になると良いですね。地域の居場所、市民協働の拠点になるよう取り組んでいけると良いと思います。</p>
委員	<p>支所地域のコミュニティセンターは、活発に活動しています。地域委員会がなくなった後も、地域委員がコミュニティセンターに入り頑張っています。地域には、高齢者が多く若者もいませんが、声を掛け合ったり、毎月のコミセンだよりを見てコミュニティセンターに足を運ぶ方もいます。</p>
会長	<p>最初の一步のための声かけで背中を押される人は多くいると思います。声の掛け合いが地域づくりに繋がると感じます。コロナ禍に大学で通常はグループで行う実験の分析を個人でやらせてみたところ、グループで分析したときよりも内容が悪くなりました。グループで学習していると、元気のいい子が他の子を引っ張っている。世の中こうやって成り立っているのかとよく分かりました。一人ひとりにメッセージを届けたり教育するだけでなく、お互いが学び合うことが非常に重要だということは、コロナ禍でとても分かりやすく出てきました。コミュニティセンターでの声の掛け合いは、本質なのではないかと思います。</p>
委員	<p>市民活動が活発な街は豊かな街だと思います。少子化などの課題により、将来性には危機感をもっています。長岡青年会議所の会員数も100人を切りました。今の生活に一生懸命で周りを見ることができないのが現状なのだと思います。使命感や世の中にとって良いことをするという気持ちもありますが、活動の楽しさ、嬉しさなどが活動の継続・維持やサードプレイスに繋がるのではないかと思います。市民活動が充実することで自分の人生が充実していくような魅力を市民の方に発信するよう</p>

<p>会長</p>	<p>なビジョンであれば、関心が広がり、市民活動も活発化していくのではないかと思います。</p> <p>継続する理由は、仲間がいることや楽しさなどシンプルなものだと思います。立場や活動が違って、それぞれ居心地の良い場所を作っていくこと。例えば、食べ物を持ち寄って持ち回りでコミュニティセンター同士の交流会を開催するのも面白いと思います。</p>
<p>委員</p>	<p>私の所属する町内会では、コミュニケーションをとるのが難しい現状です。目的がはっきりしないものや、やりがいがないものには参加しない方が増え、高齢者と若者の考え方の差が非常に大きくなってきています。まちづくりや地域を良くしようと考えてる方もいれば、反対に何もしたくないという方もいます。このような現状が改善された成功事例などを情報提供いただきたいと思います。皆が仲良く幸せに暮らせるまちづくりのために、ビジョンの策定をしていただくと将来的に良いと思います。</p>
<p>委員</p>	<p>栃尾では、そのような人こそ声をかけて道院高原でバーベキューに参加してもらっています。高齢の方も多く来られ楽しんでくださいました。今年も継続して開催しようと思っています。</p>
<p>会長</p>	<p>多くの町内会が抱える問題だと思います。おせっかいを焼いたりするような人が少なくなりませんが、そのような方々が世の中を繋いでいたのではないかと思います。適度なさじ加減で背中を押すことで、参加してくれる人はたくさんいます。100%は難しくても、地縁型のコミュニティ、テーマ型のコミュニティの形で社会に関われる場を作っていくことが市民協働の大事なところだと思います。</p>
<p>委員</p>	<p>大変ながらも楽しそうに活動する姿を見せると手伝ってくださる方がいます。まずは、地域のことに関わってる自分が楽しみながら活動したいと思います。</p>
<p>会長</p>	<p>こちらでは雪が降るとみんな嫌な顔をしてしまいますが、山古志のデジタル村民の方は喜んでいきいきやっつけてくださいます。そのような空気は大事ですね。</p>
<p>委員</p>	<p>町内会の課題も身近に感じていますし、栃尾や寺泊の様子についても感心しています。長岡においても、アオーレが非常に親しみやすい場所</p>

委員	<p>になったと感じます。当初は課題もありましたが、広い年代層の方がお話しされていたり、窓口では丁寧に対応して下さいます。思いやりが伝わる雰囲気、空気がこの20年間で良い方向に変わってきたと感じます。市役所、NPOの方も含め、皆が自分が何かやらなくてはという思いをもって一步一步前進してきたことが積み重なってきたのだと思います。</p> <p>資料の中にサードプレイスとありますが、自分自身が必要と思ってもなくても実際にその人に必要なものはあり、市民活動がそれを見つけるヒントになると思います。市民活動に積極的に関わる方、年に何度か参加する方、縁なく過ごされる方がいますが、影響を受けて調べたり知ったりする方もいます。そのような方へ発信し、触れてもらいたいと思います。SNSなどの情報発信手段もありますが、SNSに辿り着くためには、知るという段階が必要です。身近な地域の人の紹介で市民活動や市民協働の存在を知ったり、身近な人を入口にして活動に参加してくれる方も実際にいました。人物の情報を今後多くの人に知ってもらえると良いと思います。</p>
委員	<p>図書館やスポーツなど人によって居心地の良い場所は違うので、多様な市民活動、サードプレイスがあって良いと思います。コミュニティセンターは、地域の中では大事なものであると思っています。そのような情報の発信方法として、長岡ではデジタル面が少し弱いように感じます。</p>
委員	<p>団体や企業は情報発信する上で色々なメディアを使いますが、主流になってきているのがソーシャルメディアです。コストが抑えられ、手軽に発信、更新が可能ですが、その反面、情報漏えいや乗っ取り、スパムメールの踏み台になるという危険性があり、被害に合うと大きな損害が出ます。情報セキュリティ対策は、ビジョンの防犯防災の箇所に該当すると思います。市民活動団体は、ITリテラシーがあまり高くない団体も多いので、長岡市内のIT企業や大学などと連携しながらITリテラシー向上のために活動していきたいと思っています。</p>
会長	<p>今の時代、コンプライアンスや情報セキュリティ、ガバナンスが最低限必須になってくるので、押さえていかななくてはいけないと思います。</p>
委員	<p>現行のビジョンを見て、大学にできることや位置づけを疑問に感じました。大学は、学生の人材育成の機能と研究の成果や知能が蓄積されている場所です。市民協働にもっと上手く繋げられるのではないかと思います。</p>

<p>会長</p>	<p>ています。具体的には言語化できないですが、大学がどのように関わってくるのか考えています。</p> <p>学生が大勢いるということ自体がポテンシャルだと思っています。ボランティアサークルをはじめ地域に関わってくれるプレイヤーにもなり得ます。教員も無理のない範囲で、色々な形で市民活動に顔見せて、繋がっていくことは大事だと思います。まちなかキャンパスでも大学の横の繋がりができていて、それが当たり前になっています。この規模の都市にこれだけの大学があることだけでも価値があるのではないかと思います。</p> <p>重要なキーワードを多く挙げていただきました。サードプレイスという概念はとても大事だと思いますが、そこに「多様な」と付けると良いと思います。多様なサードプレイスを作ることが市民協働の意義でもあります。SDGsというキーワードを2020年に取り入れましたが、本質的にはサステイナブル、つまり地域の持続ではないかと思っています。人口減少という問題が一番わかりやすいトピックになっていますが、先ほどの「空気」という話はとても大切なことだと思います。「長岡って何かいい雰囲気だよね」という、一度住んだら離れられないまち。そういったことが持続可能なまちづくりに繋がるのではないかと思っています。子ども食堂がありますが、子どもの居場所を作らなければいけない社会でなく、自然と子どもたちが集まって来て、課題そのものが見えなくなるくらい当たり前になり、雰囲気のいい社会が理想なのだと思います。</p> <p>3 閉会</p>
<p>(出席委員の署名欄) 省略</p>	
<p>9 会議資料</p> <ul style="list-style-type: none"> ・資料1-1～1-7 市民活動のいま ・資料2-1～2-5 企業連携とSDGsの推進 ・資料3-1～3-5 市民活動のこれから ・資料4-1～4-4 次期ビジョンの方向性 	